

# ♪ わが家のアイドル ♪



本町  
中上 陽翔ちゃん(1歳)  
わが家のたからもの  
元気で大きく育ってネ

喜志町  
八木橋 月香ちゃん(2歳8カ月)  
天真爛漫でいつも楽しそうな月香♪  
皆に可愛がられて大きくなっています♪

山中田町  
藤田 莉子ちゃん(1歳6カ月)  
蓮大ちゃん(3歳10カ月)  
兄妹2人いつまでも仲良く、元気に  
育ってね♡

## みんなの広場

## 寿100歳おめでとうございます! 寿

### 宛先

584-8511  
住所・氏名(ふりがな)・電話番号  
富田林市役所  
情報公開課広報係  
常盤町1番1号

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真の裏に、名前(ふりがな)と撮影時の年齢(月齢)を記入し、メッセージ(20字程度)を添えて、封書で左記の宛先まで応募してください。なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。



1月21日に100歳の誕生日を迎えられた丹羽 光さんを訪問しました。折り紙で箱を作ったり、運動を楽しまれたりしておられるそうです。



2月7日に100歳の誕生日を迎えられた辻 マサノさんを訪問しました。皆さんからお祝いされ、大変喜ばれておられました。

## 俳句

頂点 日原 輝子選  
今月の詠題「当季雑詠」

秀句 Ⅱ  
なつかしや金釘流の年賀状  
宮町

土井 清子  
△選評V字を見ての思いを金釘流と読み切つてしまえば、俳句では無くなる。上五へなつかしやと据えたことが、正しい俳句を成し、読者にその内なる思いを、読みとらせる。その作句力が秀句を成立させた。

何も彼も身近に置きて冬籠り

向陽台

今西 尚子

着ぶくれて押し問答の中に居る

不動ヶ丘町

景山 睦子

売店に絶間なき客冬ぬくし

不動ヶ丘町

安倍 葉子

かるた初め古へ人の優雅なる

富田林町

錦 幸

呑み干して金一滴の下弦かな

山手町

笹原 秀計

仏像の全て福耳冬座敷

富美ヶ丘町

鶴田 祐子

セピア色なすは祖父なり春めぐる

選者

詠

※4月号は「川柳」を掲載します(なお、応募は2月29日で締め切りました)。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のはがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

5月号の「短歌」は3月31日(木)、6月号の「俳句」は4月30日(土)、7月号の「川柳」(宿題「引き分け」)は5月31日(火)までに応募(いずれも必着)してください。宛先は上記をご覧ください。

取り組みを通じて、仲間とともに

学校にとって、3月は年度を締めくくる重要な月です。1年間のまとめとして、学習についてはもちろんのこと、これまで支え合ってきた友達とのつながりについても振り返ります。特に最上級生は、卒業式に向けて自己の成長を振り返る大切な時期です。

●仲間のことを考えて行動する

ある市内の小学校を訪問したときの出来事です。支援学級に在籍している児童が、郵便マークの書かれた紙袋を持って職員室にきました。配布物を取りに来ているのですが、同じクラスの児童が後ろでそっと見守っていました。「何か困ったことがあれば、そっと支えるよ」という様子でした。周りの児童が、障がいのある仲間の個性を把握し、考えて行動していることが見てとれました。

障がいのある児童を含めた学級学年集団が、小学校6年間でとても成長したことがよく分かる光景でした。これまで関わってきた教職員が、一人一人の成長を考え、取り組みへの参加の仕方や周りの児童の関わり方について協議して取り組んできたことで、全ての子どもたちが自信をつけ、個々はもちろん、集団としても成長しているのだと思います。

明日を  
めざして

●障がいの有無に関わらず、支え合いながら暮らしていける社会の中心として

さて、28年4月1日より「障害者差別解消法」が施行されます。この法律では、「障がい者の権利を保障するために、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をするように努めなければならない」と規定されています。

本市においては、これまでも支援を必要とする児童・生徒の教育的ニーズに応じて教育活動をしてきましたが、同法により、これまでの取り組みの必要性が明文化されたということになります。今後は、一人一人の教育的ニーズに対応していくことはもちろん、子どもたちの障がい理解(心のバリアフリー)を深める取り組みもさらに力を入れる必要があります。周りの子どもの関わりにぬくもりがあることで、全ての子どもたちが、学習活動に参加している実感・達成感を持ち、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけると考えています。

明日を担う子どもたちが、障がいの有無に関わらず、支え合いながら暮らしていくという共生社会の中心として成長できるよう、学校はもとより全ての大人で見守っていくことが大切ではないでしょうか。

教育指導室(内線364)

わたしのまちの文化財

富田林に鉄道がきた

明治22年(1889年)5月14日、大阪鉄道(現JR関西線)の湊町(現JR難波駅)・柏原間が開通しました。鉄道の開通によって柏原は南河内の人たちが大阪市内へ出る玄関口となりました。しかし、鉄道に乗るには自分の村から徒歩や人力車で柏原に出る必要があります、柏原から離れた村の人たちにとっては不便でした。

そこで24年、柏原・富田林間で鉄道馬車の敷設が計画されました。これは石川の堤防の上のレールを敷いて軌道とし、8人乗りの客車を馬に引かせるというものでしたが、出願の運びまで中止されました。25年、富田林の有力者たちが中心となって大阪鉄道の平野までは八尾から富田林、三田市、橋本を経て和歌山へ通じる鉄道を敷設する計画が立てられました。河内線と名付けられたこの路線は、同年6月に公布された鉄道敷設法による計画路線を誘致しようとするものでしたが、当時の政府の方針とは合わず、挫折してしまいました。さらに26年には、柏原・長野間に鉄道を敷設する計画が立てられ、27年7月、国に河陽鉄道

株式会社創立の願書が提出されました。

そして29年2月、ようやく河陽鉄道の創立と開業の免許がおり、同年12月5日に道明寺天満宮で起工式が執り行われ、31年4月14日、ついに柏原・富田林間が開通し、営業が開始されました。



明治40年代の富田林駅

開通日には、周辺の町や村から多くの人たちが富田林駅に集まり、餅まきや花火、相撲などをして開通を祝いました。ところで、26年の計画当初の路線図では、石川に沿って鉄道が描かれていたことが「河陽鉄道株式会社目論見書」から分かっています。つまり、現在のルートとは異なり、東高野街道の東側を通っているのです。結局この路線ではなく現在の近鉄線の路線で計画が進められたのですが、計画当初は24年の鉄道馬車敷設計画と同じルートで計画されていたのかもしれない。当時の目論見書や路線図を国立公文書館のホームページ「デジタルアーカイブ」(<https://www.digital.archives.go.jp/>)でご覧いただけます。石川に沿って鉄道が描かれている路線図を見ながら、その路線図で計画が進められていた場合の富田林の姿を想像してみるのも面白いかもしれません。

文化財課(内線507)